

ミサトピア小倉病院 事務局長 濱 春茂

ミサトピア小倉病院の濱と申します。財団管財室からの異動で少々戸惑っております。しかし、小倉病院は開設準備の際に地元対応等で駆けずり回っていたところであり、その頃のことを思い返し、懐かしい所に帰ってきたように感じています。本部から現場の立場となり、今後は実績が形として現れてしまうわけですから、その緊張感を感じつつ、皆さんの協力をいただきながらやっていきたいと考えております。今年、小倉病院は開設5周年と一つの区切りを迎えました。窓から小倉の冬景色を眺めていますが、春には病院の桜の木も根付いて美しく開花すると思います。良くなっていく希望を持ちながら、臨んでいきたいと思いません。宜しくお願い致します。

神城醫院 白馬メディア 事務長 飯田 全

12月1日の異動で、白馬メディア・神城醫院の事務長に就任致しました。飯田 全（いいた たもつ）と申します。出身は大阪です。将来は穂高に永住しようと、数年間を掛けて土地探しから始めました。縁あって、6年前に城西病院にお世話に成ることが決まり住居も穂高に見つけることが出来ました。関西に居る時から病院の仕事をしておりましたので医療に関しては多少の知識が有りますが、白馬は有床診療所と介護保険老人施設を中心とした運営となる為、何かと勉強することばかりです。当面のテーマとして、3つの満足を目指そうと考えています。1. 利用者並びに家族の満足 2. 職員の満足 3. 施設（経営）の満足 です。なかなか難しいテーマですが、皆様のご協力とご援助をお願いしながら精一杯の努力をいたします。ご指導と応援をお願いしまして、新任のご挨拶と致します。

安曇野メディア 事務長 丸山 徹

安曇野メディアまでの通勤は、白銀に輝く雄大な北アルプスの山並みを見ながらおよそ35分。晴れた朝のその澄みきった景色は、何ともいえない美しさです。メディアの一日は、8時40分からの朝礼、引き続いてのラジオ体操から始まります。今は初めての職務に毎日戸惑いながら過ごしております。老人保健施設は、「自立支援」を究極の目的に、総合的ケアサービス施設としての医療、看護、介護サービス、家庭復帰に向けたリハビリ機能、更には地域の在宅ケアを支援するための介護情報の発信源としての役割があります。利用者・家族をはじめ、地域の皆さんの信頼に応えるべく、真に求められる必要なサービスの提供を、地域の介護保険サービス事業所のトップランナーとして、質の高いサービスの提供に努めて参ります。未熟ではありますが、皆様のご協力とご支援を宜しくお願い申し上げます。



いつも優しく

城西医療財団 新人事発表について

当医療財団は昭和26年に医療法人化致しましたが、創業は明治19年11月11日であり、昨年120周年を迎えました。私は、平成3年に城西病院院長に就任致しましたが、昨年3月で在職15年になりました。120周年を期に院長の職を辞し、城西医療財団諸施設及び社会福祉法人七つの鐘諸施設の統括をする総長に就任することと致しました。これにより各施設間の連携を密にすると共に、より効率的安定的な経営を目指したいと思っております。さらに、当医療財団施設幹部の人身を一新し、来るべき社会医療法人化に向けて対応を致すべく下記のとおり各施設の役職員の任命を行い、12月1日付けでそれぞれ就任させました。

特別医療法人城西医療財団
理事長・総長 関 健

城西医療財団本部

- 理事長・総長（新任） 関 健
- 管財室長（新任）・総事務局長 加藤晴久
- 企画相談室長・総看護局長 原 静恵
- 企画相談室長代行（新任） 白谷輝夫

豊科病院

- 病院長（新任） 五味淵満徳
- 事務局長<病院長補佐>（新任） 澤谷富秋
- 看護局長<病院長補佐> 金子良子

神城醫院・白馬メディア

- 院長・施設長 宮城 彰
- 事務長<院長補佐>（新任） 飯田 全
- 看護長<院長補佐> 西澤尊子
- 介護部長 佐藤千枝子

城西病院

- 病院長（新任） 庄司進一
- 事務局長<病院長補佐>（新任） 請地竹雄
- 看護局長<病院長補佐> 嶋田廣子
- 健康センター所長 岩浅武彦
- 医療連携室長 塚田きよ子

ミサトピア小倉病院

- 病院長 小木曾 俊
- 副院長<病院長代行>（新任） 桑村 智
- 診療局長（兼任） 濱 春茂
- 事務局長<病院長補佐>（新任） 丸山 要子
- 看護局長<病院長補佐>

安曇野メディア

- 施設長 西里吉昭
- 事務長（新任） 丸山 徹
- 看護長 三沢美穂子
- 介護部長 久保田 昇



就任によせて

～各施設新任者からのご挨拶～

城西医療財団本部 管財室長・総事務局長 加藤晴久

東京の大学を卒業後、そのまま東京に本社のある企業に就職しました。営業を命ぜられ其れなりに自分に合った仕事と感じ、定年まで在職するつもりだったのですが、父（当時の城西病院事務局長）が病気で余命幾許も無く、母を独りにする訳にもいかずUターンを致しました。最初城西病院に勤務し、父の死後、豊科病院の増改築に合わせ転勤となり、増改築後は事務局長として長年勤務して参りましたが、関 東和先生（前豊科病院長）の死去により、豊科病院が新たな変革を、或いは後進に道を譲る時期が来たと判断し、財団本部付を拝命致しました。今後は総長、総看護局長と共に財団全体の経営（管財・労務等）に携わります。厳しい注文もあるでしょうが、財団発展の為にどうか協力をお願いします。尚、趣味は年相応のゴルフです。どなたかお誘い下さい。

城西医療財団本部 企画相談室長代行 白谷輝夫

前任地のミサトピア小倉病院には、開設準備室の病院立ち上げから携わり5年2ヶ月勤務し、今回の人事異動で財団本部企画相談室に勤務することとなりました。

企画相談室では、事業部門・出版部門を担当し現在、医療法改正で創設された社会医療法人への移行に向け準備を進めています。

出身は長野市ですが、何故か安曇野の自然に魅せられ安曇野市穂高の碌山美術館近くに住居を構え20年、現在、二世帯同居で孫達と毎日賑やかに生活しています。

趣味と言える程ではありませんが、強いて言えばドライブと史跡散歩で、私はカメラ持参、妻はスケッチブック片手に、お互いの趣味らしきものを実践しています。最近、運動不足による体力の衰えを実感するところとなり、院内の S ウエルネスクラブに入会し、トレーニングを始めたいと思いますので、クラブスタッフの皆さん宜しくお願いします。

城西病院 病院長 庄司進一

蓬 麻中に生ずれば 扶けずして 自ら直し、
白砂、泥中にありて、是と、皆黒し。

これは、素質や遺伝よりも環境の重要性を強調している一文で、私の座右の銘です。

私は東大医学部を卒業後、母校の神経内科で研修や研究をし、英国留学を挟んで20年近く信州大学で勤務しました。信州で子どもたちと共に北アルプスの麓の村々をハイキングし、安曇野の美しさが好きになり家を作りました。筑波大学教授を12年間務め定年退職し、城西病院に就職しました。安曇野の美しい四季を楽しみながら勤められる幸せを感じています。

これから城西病院の院長として、本格的な緩和医療と安曇野の住民の幸せの支援を目指したいと思っております。宜しくお願い致します。

城西病院 事務局長 請地竹雄

城西医療財団にお世話になって、6年が過ぎようとしております。私が医療業界に飛び込み、途中4年ほど他職種を経験しましたが、もう36年が経ちました。平成13年4月、白馬の地に有床診療所、老健、グループホーム、訪問看護・介護ステーション等の開設当初から5年8ヶ月携わり、この度城西病院に異動となりました。白馬は北アルプスをはじめ美しい自然に恵まれ、大変気に入った所でしたので非常に残念な気がしております。しかしながら、松本は白馬に比べますと都会で活気があり、松本から東京に上京したような錯覚にとらわれていたのも事実です。ともあれ、6年前まで慣れ親しんだ松本を再びエンジョイ出来ることに感謝しつつ、仕事に取り組んでいきたいと思っております。

皆様のご指導を宜しくお願い申し上げます。

豊科病院 病院長 五味洵満徳

私は、栃木県にある有名な那須温泉郷から南南西に20kmほど南下した場所にある、大田原市に生を享けました。そして、この田園都市である地元で高校までを過ごした後、順天堂大学医学部に入学。同校を昭和54年3月に卒業し、それからは大学・埼玉県・千葉県各病院にて、精神科の臨床を学んできました。主に臨床脳波学を中心に、深さにはいささか心許ない点もありますが、広く学べたと考えております。また、小児精神科の分野を少々苦手としますが、これは自分で受け持った症例が少ない為です。

今まで「患者様が必要とされている時は、出来る限りそばに居る」ことをモットーにして働いてきたつもりですが、まだまだ十分とは言えません。患者様が自身の力で病気を治していくことを私が邪魔することなく、安全保障感が高まるように手助けが出来れば、と考えています。

これからもnoblesse oblige（身分に応じて果たさねばならぬ社会的責任と義務がある：という意）の精神でやっています。

豊科病院 事務局長 澤谷富秋

もう二十数年過ぎてしまったのか、縁あって財団に就職し事務職としての道を歩んできた。この仕事に就く前は営業の仕事で5年ほどしていた。馬鹿らしい理由だが転職しようと思ったのは、大雪のある夕方、木曽路を松本に向かう車の中で「屋根の下で、机に向かって、暖かい場所で仕事がしたい！」だったような。（本当は転勤の無い企業が希望）昭和60年豊科病院の建替え竣工に合わせて、同年2月に城西病院に就職、同年12月豊科病院へ異動、平成10年4月安曇野メディアへ異動、そして平成18年12月豊科病院へ異動。実際老健への異動、またまた病院への移動と全く考えもしなかったことで少々困惑していたが、施設・病院・介護保険・医療保険等々違う分野の経験ができたことは良かったのだろう。まだまだ慣れないこともあるが、皆さんの協力を得ながら、焦らず着実に進んで行きたい。

ミサトピア小倉病院 副院長・診療局長 桑村 智

昨年12月1日よりミサトピア小倉病院の副院長となりました、桑村と申します。

私が城西病院で仕事をするようになって、そろそろ10年にもなりますが、その間に財団内では色々な変化がありました。関連の病院や施設が増え、結果として職員一人一人に掛かる負担やストレスは、倍増しているように感じられます。

しかし、こんな時こそ「自立して機能する」ことが大切なのではないかと思えます。これまでは一方通行的な指示系統のために受動的傾向が強く、自分のアイデアや信念に基づいた行動（周囲とのバランスが大切ですが）といった、能動的側面があまり感じられませんでした。しかし個々の職員と話をしてみると、様々な困難に直面していたり、有用なアイデアを持っていたりするものです。今後はこういったことが生かされ、改善していける職場でなければならぬと切に思います。そのためには「意見やアイデアを一つ一つ受け止めたうえで現状とのバランスを取る」ことが私の役割だと日々考えております。

これからは副院長としてその責任を意識しながらミサトピア小倉病院、ひいては城西医療財団の運営に貢献できるように力を尽くしたいと思っておりますので、今後共宜しくお願い致します。